

令和元年 12 月 23 日

計量分析設備の質量分析装置の更新、グローブボックスNo.FQG-60n (1) の設置
及びグローブボックスNo.FQG-60n への接続に係る施設検査申請について

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核燃料サイクル工学研究所
プルトニウム燃料技術開発センター

1. はじめに

日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 プルトニウム燃料技術開発センターでは、核燃料物質使用施設であるプルトニウム燃料第三開発室（以下「Pu-3」という。）の計量分析設備の質量分析装置の更新を行うため、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置し、グローブボックスNo.FQG-60n に接続を行ったことから施設検査を申請したものである。

2. 事業の許可等の変更の経緯

Pu-3 は、昭和 56 年 11 月 10 日に 56 安(核規)第 494 号で核燃料物質使用許可を受け、平成 31 年 1 月 16 日付け原規規発第 1901162 号をもって使用の変更の許可を受けたものである。

3. 施設検査の対象

本工事において Pu-3 の計量分析設備の質量分析装置の更新を行うため、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置し、グローブボックスNo.FQG-60n に接続を行ったことから施設検査の対象とした。なお、施設検査はグローブボックスNo.FQG-60n (1) 設置後、グローブボックスNo.FQG-60n との接続後の 2 回に分けて受検する。

4. 施設検査対象の設計について

平成 31 年 1 月 16 日付け原規規発第 1901162 号の使用変更許可において、計量分析設備の質量分析装置の更新を行うため、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置し、グローブボックスNo.FQG-60n に接続を行った。工事の技術上の基準への適合性の詳細については、別紙-1 施設検査申請書「計量分析設備の質量分析装置の更新、グローブボックスNo.FQG-60n (1) の設置及びグローブボックスNo.FQG-60n への接続」に示す。

以上

施設検査申請書

計量分析設備の質量分析装置の更新、グローブボックスNo.FQG-60n (1) の設置及び
グローブボックスNo.FQG-60n への接続

1. 施設検査に対する基本的な考え方

プルトニウム燃料第三開発室の計量分析設備の質量分析装置の更新を行うため、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置し、グローブボックスNo.FQG-60n に接続するものであり、核燃料物質の使用等に関する規則第2条の5に定められる工事の技術上の基準のうち、第1号、第6号、第10号、第18号に関する検査を申請した。

2. 設計仕様及び工事の技術上の基準

質量分析装置、グローブボックスNo.FQG-60n (1) 及びグローブボックスNo.FQG-60n の概略図を別添-1に示す。

2.1 閉じ込めの機能 (第1号)

(1) 準拠した基準及び規格

- ・核燃料物質使用変更許可申請書
- ・日本産業規格 (JIS Z 4820「グローブボックス気密試験方法」の漏れなし容器法)

(2) 設計仕様

グローブボックスNo.FQG-60n (1) のリーク率は、0.1 %/h 以下の気密性を確保する。また、グローブボックスNo.FQG-60n 及びグローブボックスNo.FQG-60n (1) 内の負圧は、給排気量の調整により、設置されている設置されている分析物性室 (FQ-201) に対して、 $30 \pm 5 \text{ mmH}_2\text{O}$ ($300 \pm 50 \text{ Pa}$) に維持する。

漏れなし容器法のリーク率算出及び概略図を別添-2に示す。

(3) 工事の技術上の基準への適合性

新たにグローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置したことから、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を対象に漏れなし容器法による密閉構造を確認する。グローブボックスNo.FQG-60n との接続後に、グローブボックスNo.FQG-60n (1) とグローブボックスNo.FQG-60n を対象に負圧維持を確認する。

2.2 火災等による損傷の防止 (第6号)

(1) 準拠した基準及び規格

- ・核燃料物質使用変更許可申請書

(2) 設計仕様

グローブボックスNo.FQG-60n (1) 内の温度上昇率が毎分 15 °C 以上かつ温度が 60 °C 以上になった場合、グローブボックスNo.FQG-60n (1)、分析物性室 (FQ-201) 及び中央管理室で警報を表示するとともに、ハロゲン化物消火設備が作動する。グローブボックスNo.FQG-60n からハロゲン化物消火設備配管

を延長して、グローブボックスNo.FQG-60n (1) へ噴射ヘッドを設置する。グローブボックス内温度上昇警報系統図を別添-3 に示す。

グローブボックス本体の材質はステンレス鋼、エキスパンションジョイント（ベローズ）の材質はステンレス鋼、グローブポートの材質はフェノール樹脂、窓板の材質はポリカーボネート樹脂、支持架台の材質は一般構造用鋼又はステンレス鋼とする。

(3) 工事の技術上の基準への適合性

新たにグローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置したことから、グローブボックスNo.FQG-60n (1) を対象にグローブボックス内温度上昇警報及びハロゲン化物消火設備の性能及び設置状態を確認する。また、グローブボックスNo.FQG-60n (1) は、可能な限り不燃性又は難燃性の材料を使用していることを確認する。

2.3 地震による損傷の防止（第10号）

(1) 準拠した基準及び規格

- ・核燃料物質使用変更許可申請書
- ・建築基準法
- ・日本産業規格（J I S）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針
- ・発電用原子力設備規格（J S M E）
- ・鋼構造設計規準
- ・あと施工アンカー・連続繊維補強設計・施工指針
- ・鉄筋コンクリート構造 計算基準・同解説

(2) 設計仕様

耐震重要度分類をCクラスとし、静的水平震度を1.2 Ciとして許容応力設計を行う。また、グローブボックスNo.FQG-60n (1) 及び質量分析装置は水平震度1.0に対してアンカーによる転倒防止を行う。

グローブボックスNo.FQG-60n とグローブボックスNo.FQG-60n (1) の接続については、耐震上影響を生じないエキスパンションジョイント（ベローズ）を用いて接続する。

(3) 工事の技術上の基準への適合性

新たにグローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置し、当該グローブボックスに質量分析装置を接続したものであるため、質量分析装置及びグローブボックスNo.FQG-60n (1) を対象に据付・外観、固定ボルトの材料、固定ボルト間の寸法及び固定ボルト呼び径の寸法を確認する。

グローブボックスNo.FQG-60n (1) 及び質量分析装置の耐震強度計算結果を別添-4 表1に、質量分析装置、グローブボックスNo.FQG-60n (1) の固定ボルトの配置図を別添-4 図4に示す。

2.4 溢水による損傷の防止（第18号）

(1) 準拠した基準及び規格

- ・核燃料物質使用変更許可申請書
- ・原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド

(2) 設計仕様

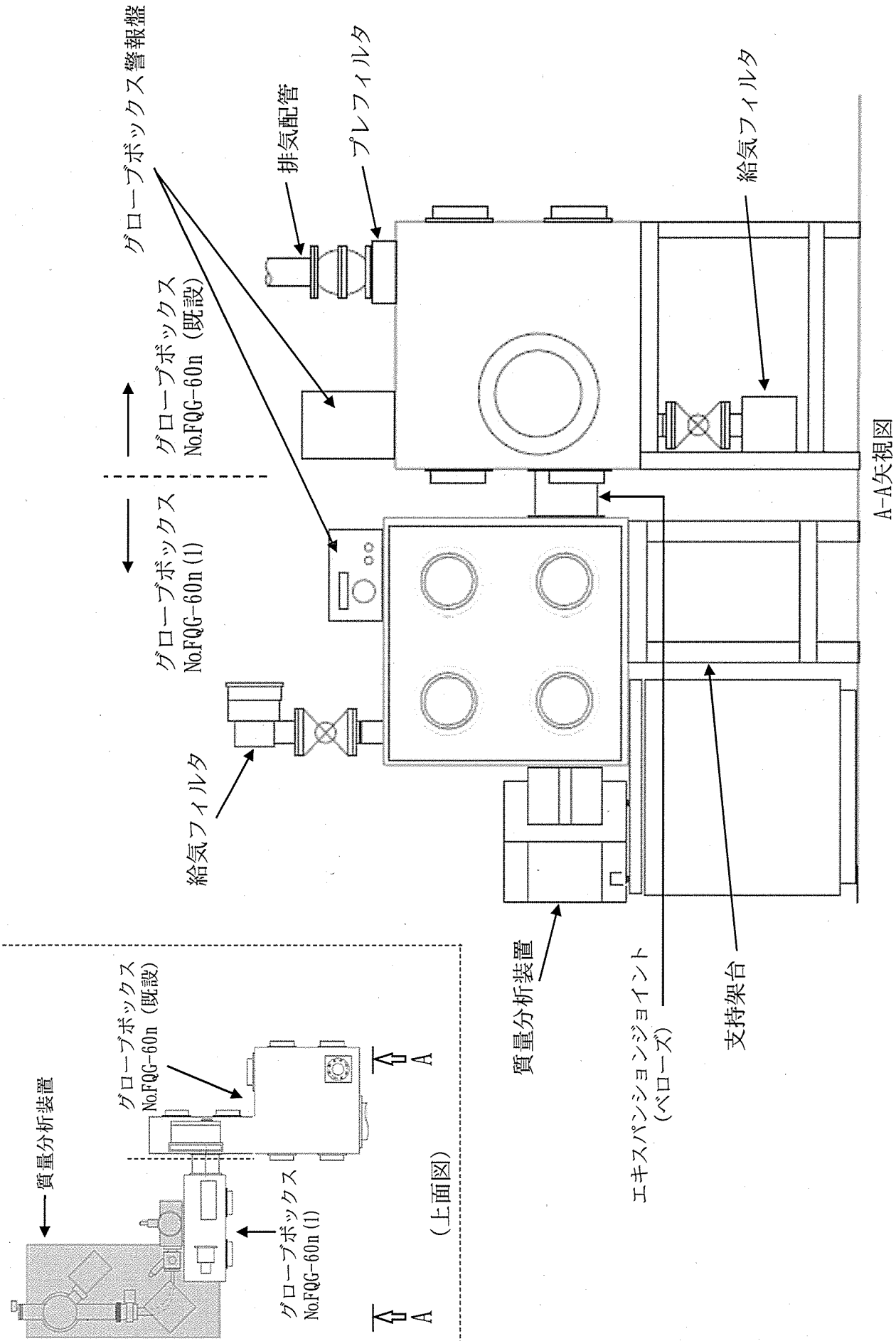
「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」を基に想定した施設内における溢水源及び溢水量から算出した溢水高さよりも高い位置に溢水防護対象設備（グローブボックス内温度上昇警報及びグローブボックス内消火設備（ハロゲン化物消火設備）（新たにグローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置したことに伴い増設した箇所））を設置する。

(3) 工事の技術上の基準への適合性

新たにグローブボックスNo.FQG-60n (1) を設置したものであり、溢水防護対象設備であるグローブボックス内温度上昇警報及びグローブボックス内消火設備の設置高さが溢水の影響評価高さ（0.05 m）を超えることを寸法検査で確認する。

溢水防護対象設備の設置高さを添付-5に示す。

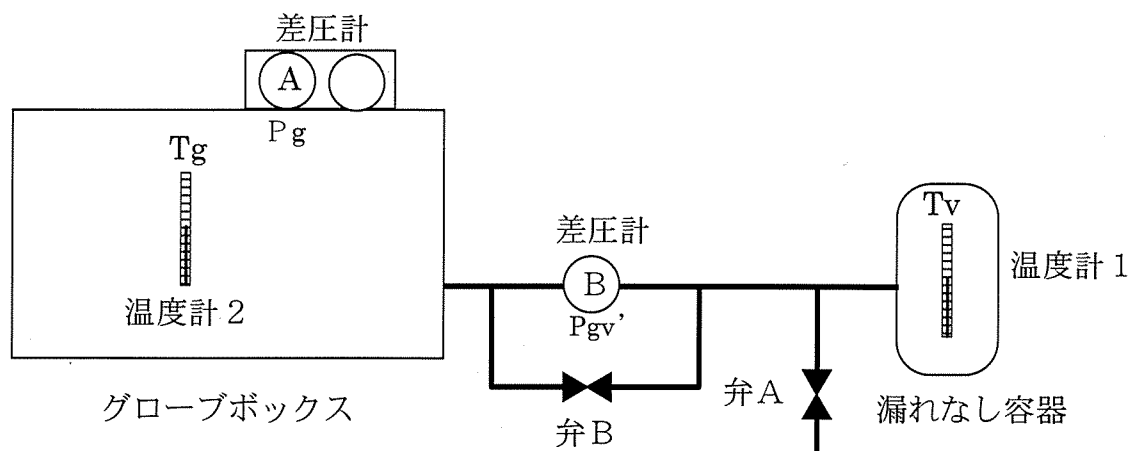
以上



添1-1

図1 質量分析装置、グローブボックスNo.FQG-60n (I) 及びグローブボックスNo.FQG-60nの概略図

漏れなし容器法のリーク率算出及び概略図



t 時間後のグローブボックス内圧力は通常 1.0×10^5 Pa と近似できる。測定開始時の漏れなし容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$) と t 時間後のグローブボックス容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$) は、300 K と近似でき、温度の項は測定温度値 ($^{\circ}\text{C}$) を直接用いるように本体の式を簡略した次の式を使用する。

$$L_v = \frac{60}{t} \left\{ \frac{P_{gv'}}{101325} - \frac{\{(T_v - T_{v'}) - (T_g - T_{g'})\}}{300} \right\} \times 100$$

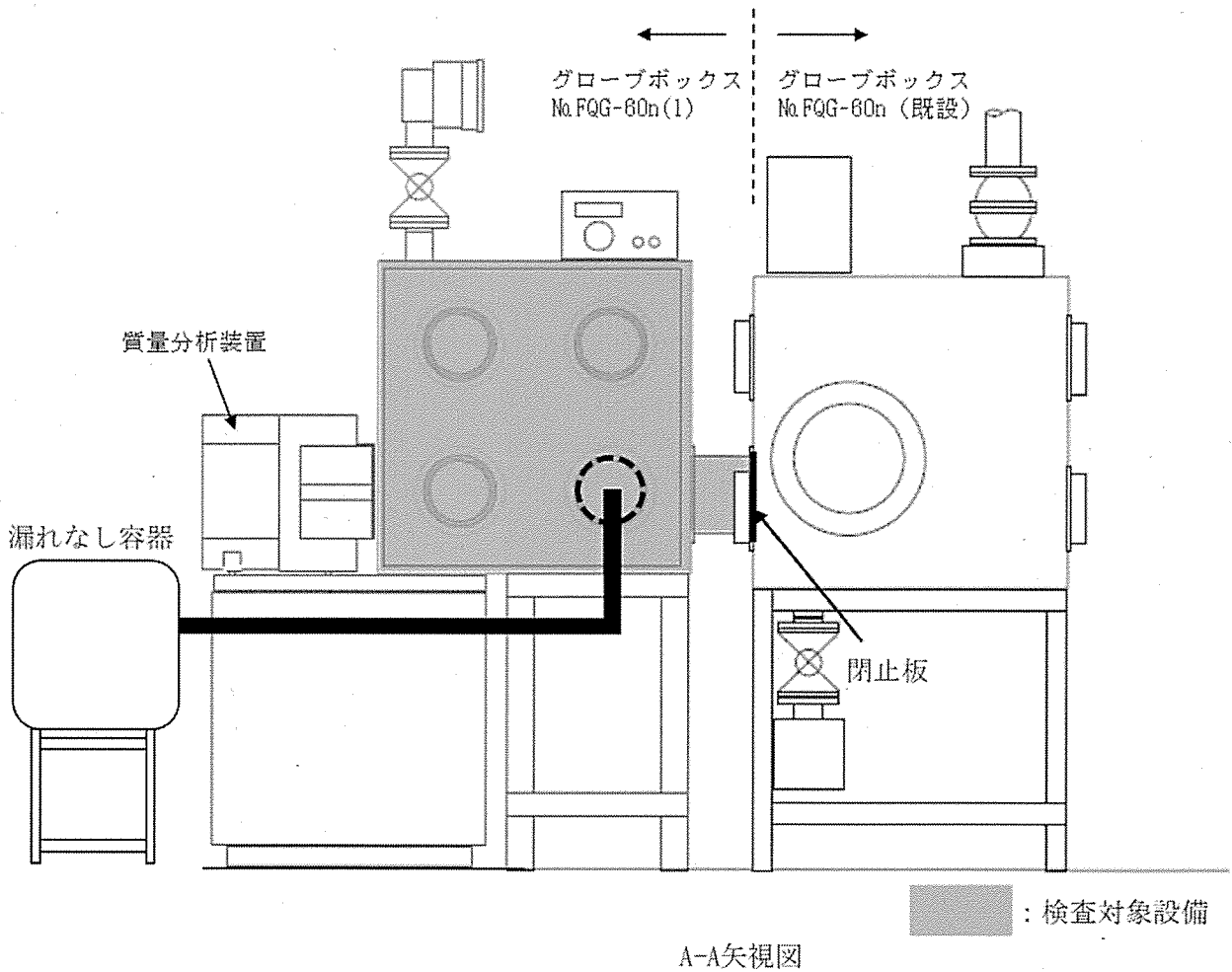
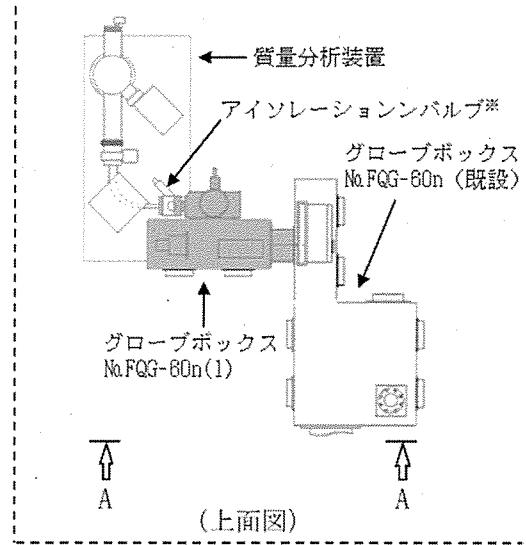
- L_v : リーク率 (%/h) (ここで、%は体積分率を示す。
 t : 測定時間 (min)
 T_v : 測定開始時の漏れなし容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$)
 $T_{v'}$: t 時間後におけるそれぞれの漏れなし容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$)
 T_g : 測定開始時のグローブボックス容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$)
 $T_{g'}$: t 時間後におけるグローブボックス容器内温度 ($^{\circ}\text{C}$)
 $P_{gv'}$: t 時間後のグローブボックスと漏れなし容器間の差圧 (Pa)

(注1) 差圧計及び温度計は校正され、差圧計は 5 Pa の読み取り可能なもの、並びに温度計は 0.01 $^{\circ}\text{C}$ の読み取り可能なものを用いる。

(注2) 測定中の温度変化許容範囲は以下の範囲とする。

$$\left| (T_v - T_{v'}) - (T_g - T_{g'}) \right| \leq 0.3 \text{ } ^{\circ}\text{C}$$

(注3) 本測定は、測定中の温度や気が急激に変化すると測定結果が異常値となることがある。そこで、測定中に異常なデータが連続した場合には JIS Z4820 に従い測定時間を延長する。なお、延長でも異常なデータが連続する場合には再測定を行う。



※質量分析装置の一部を含めて気密検査を実施する。(アイソレーションバルブが気密境界)

図2 漏れなし容器法の概略図

No.	名称	No.	名称
①,②	白金側温抵抗体	⑨,⑩	グローブボックス温度警報設定器
③,④	差動分布型感熱部	⑪	警報ブザー
⑤,⑥	温度発信器	⑫	警報表示灯
⑦,⑧	差動分布型検出部	⑬	選択変換器
□	AND 回路		

動作表	
グローブボックス警報盤	グローブボックスNo.FQG-60n 及びグローブボックスNo.FQG-60n (1) の警報盤で警報音吹鳴
グローブボックス監視盤 (検査工程制御室)	グローブボックスNo.FQG-60n 用の警報表示灯の点滅及びグローブボックス温度上昇警報の警報表示灯の点灯、警報音吹鳴
監視盤 (中央管理室)	グローブボックス温度上昇警報の警報表示灯の点滅及び警報音吹鳴
ハロゲン化物消火設備	起動用ガス容器弁を開放 (膜破壊) するためのピンが飛び出すこと

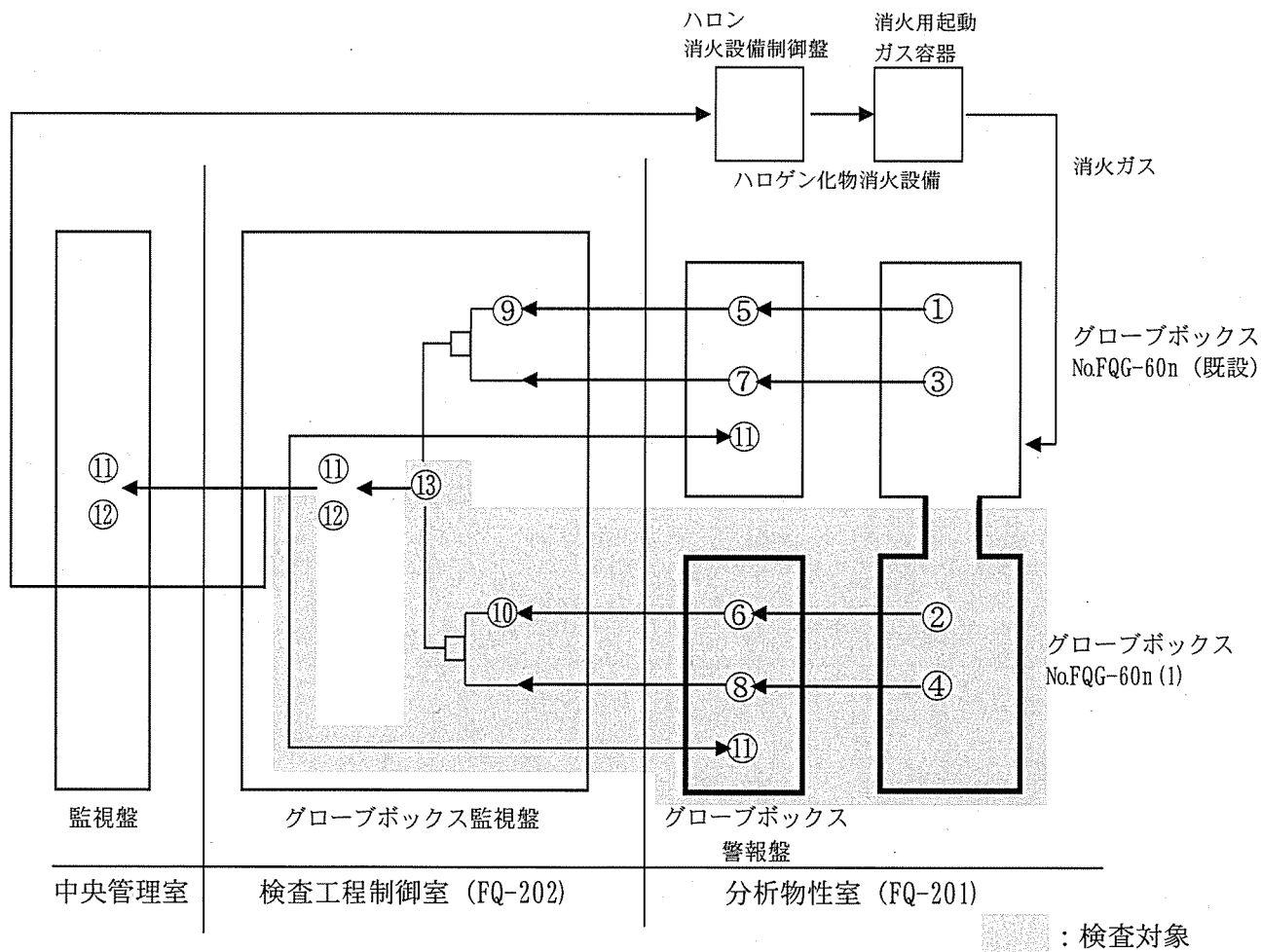
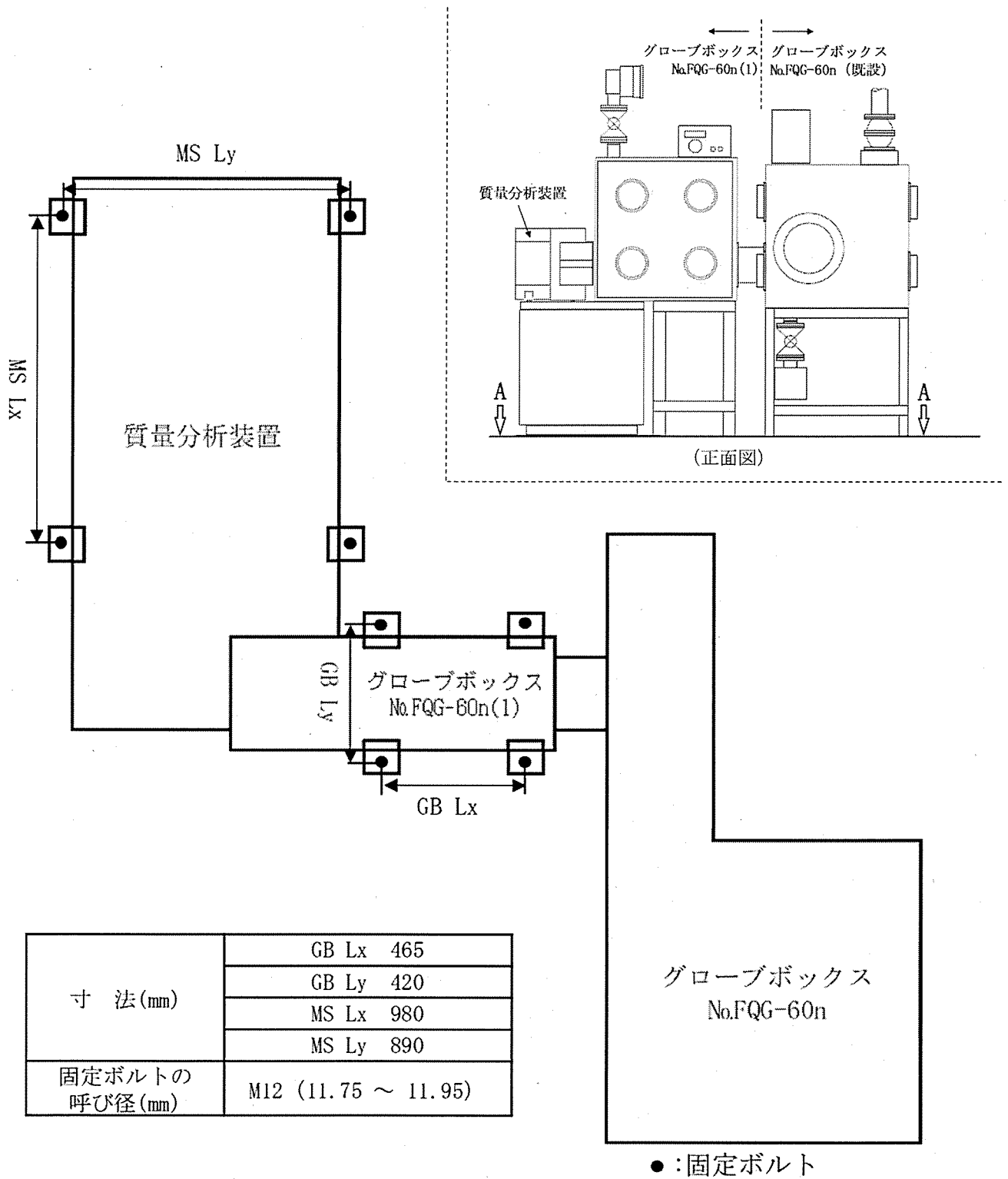


図3 グローブボックス内温度上昇警報系統図

表1 グローブボックスNo.FQG-60n (1) 及び質量分析装置の耐震強度計算結果

評価対象		グローブボックスNo.FQG-60n (1)		質量分析装置	
耐震重要度分類		C クラス		C クラス	
耐震強度計算		設計最大 応力 (N/mm ²)	短期許容 応力 (N/mm ²)	設計最大 応力 (N/mm ²)	短期許容 応力 (N/mm ²)
静的解析		10.84	205	-	-
主要部材等材質		SUS304		-	
転倒の検討	引張応力	51.4	245	47.2	245
	せん断応力	11.2	141	34.6	141
	使用ボルト	M12		M12	
	ボルト間隔 (mm)	420		980	
	ボルト材質	SS400		SS400	



A-A 矢視図

図4 質量分析装置、グローブボックスNo.FQG-60n(1)の固定ボルトの配置図

